自己点検評価報告

2017年

京都大学人文科学研究所

Ⅰ　研究施設の概要

目的

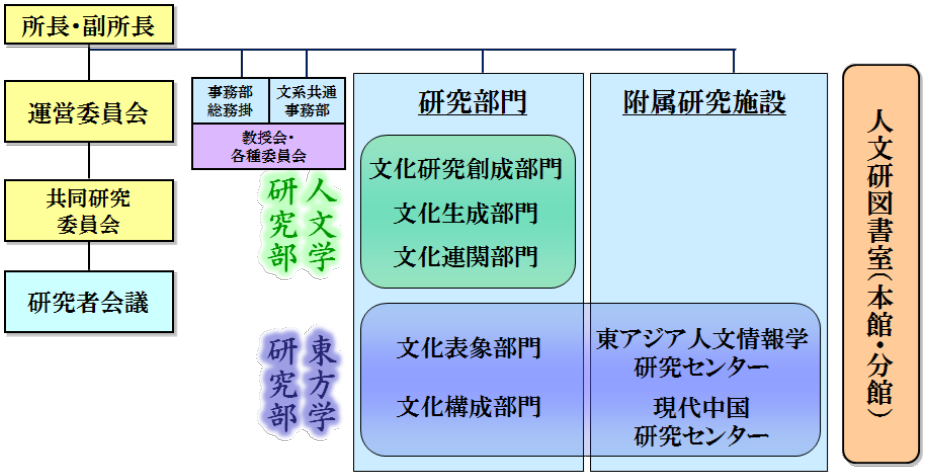
多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信する

組織

5部門（文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成）
2附属施設（東アジア人文情報学、現代中国）
みやこの学術資源研究・活用プロジェクト

研究体制

多様な関心に基づく個人研究
高頻度で開催されるハイレベルの共同研究
公募型12件、公募型以外12件（H28年度）



設備

共同研究室、図書閲覧室

資料

図書　約62万冊、雑誌　約9700種
他に考古美術、地理民俗、文革期刊行物

共同研究施設

図書室

Ⅱ　活動状況

1. 情報発信の取組状況

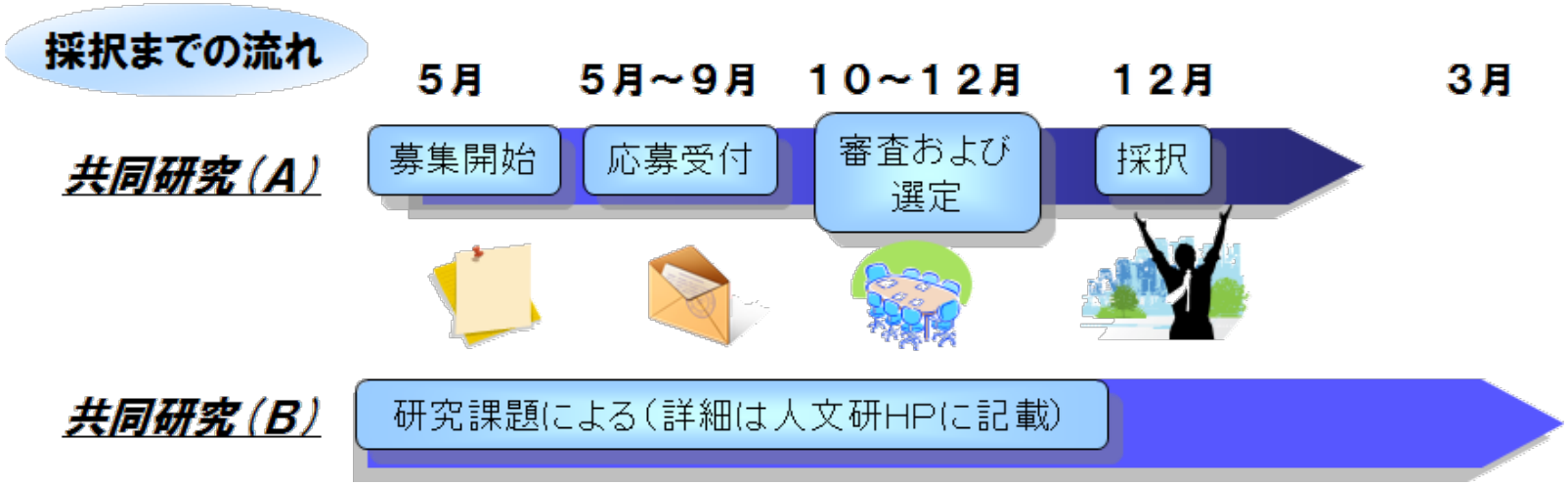
（1）共同研究の募集

①課題公募型共同研究（A班）：　課題自体と班員を募集

②参加者募集型共同研究（B班）：　課題は所内で選考し、班員を募集

随時ウェブサイトの情報を更新

研究者コミュニティを通じた広報活動



共同利用・情報発信

研究図書館機能
東方学デジタル図書館
人文学貴重資料

東アジア人文情報学
研究センター
発信方法の研究と実践

共同研究支援
資料収集

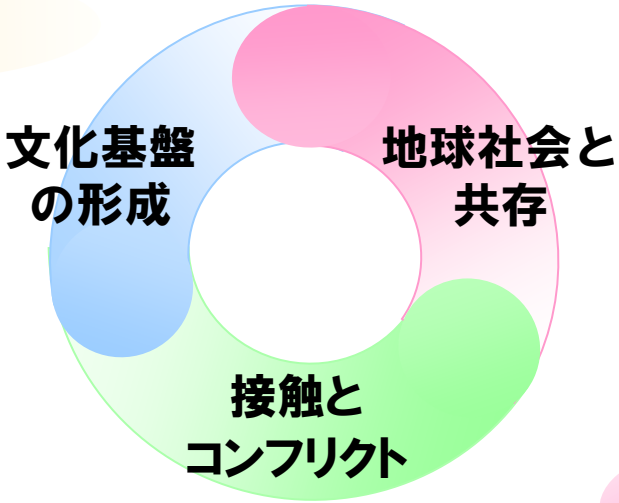
全国漢籍データベース
文字字体変遷データベース
東洋学文献類目

デジタルアーカイブ
（非文字資料）

（赤字は重点事業）

世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究

3つのコンセプト



テーマ1　文化基盤の形成

- 日本近代と伝統の創造
- 東アジアにおける三教交渉の諸相
- インド古代儀礼の継承
- 中国出土文物と文字資料
- 中国の法と儀礼
- 中国建築と生活文化の伝統
- 陰陽五行のサイエンス
- 言語接触と方言
- アジア古典文献コーパス
- その他（公募）

テーマ2　接触とコンクリフト

- 東アジアにおける人の移動
- 交易とコロニアリズム
- 近代化とグローバリゼーション
- 現代／世界の総合的研究
- 外から見た近代日本の記録
- 虚構と擬制
- 啓蒙の運命
- その他（公募）

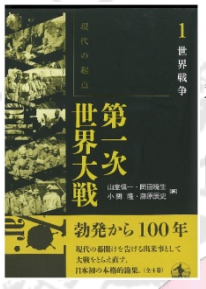
テーマ3　地球社会と共存

- コンタクトゾーン
- 人種の表象と表現
- 中国社会主義文化の研究
- 利害表出と共生
- 自然/科学技術/医療/環境
- 情報ネットワーク/コミュミケーション
- その他（公募）

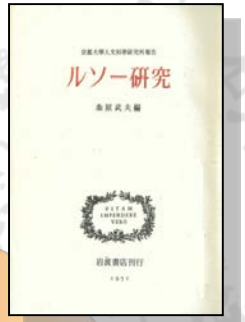
共同研究方法論の伝統と継承

- 共同研究の「草分け」
- 3つの柱を軸として、設立以来の方法論を継承

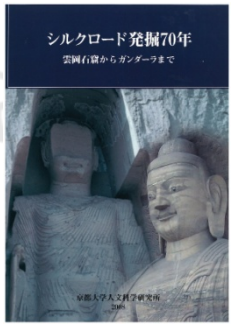
山室信一・岡田暁生
小関隆・藤原辰史　編
『現代の起点　第一世界大戦』
2014年

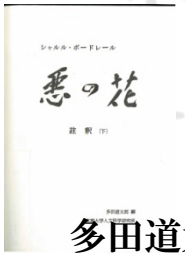


桑原武夫
18世紀フランス研究
『ルソー研究』
1951年



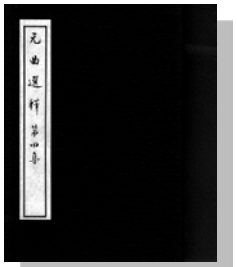
京都大学人文科学研究所編
『シルクロード発掘70年～雲岡石窟からガンダーラまで～』
2008年





多田道太郎　編
『悪の花　注釈（上・下）』
1986年

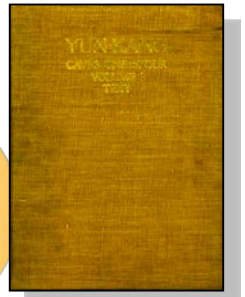
学際的研究
学界セクショナリズム
の打破



吉川幸次郎
元代雑劇の研究
『元曲選釋』
1951・52年

原典の会読

現地調査



水野清一他
雲岡石窟調査
『雲岡石窟』全16巻
1951－56年

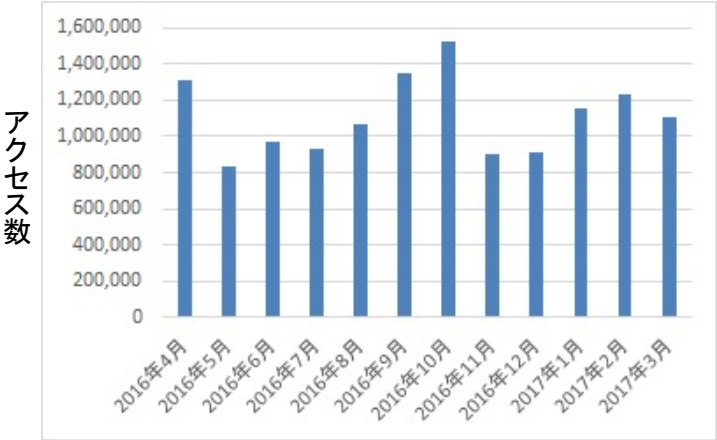
（2）共同利用の推進

人文研所蔵資料のデジタル化と公開

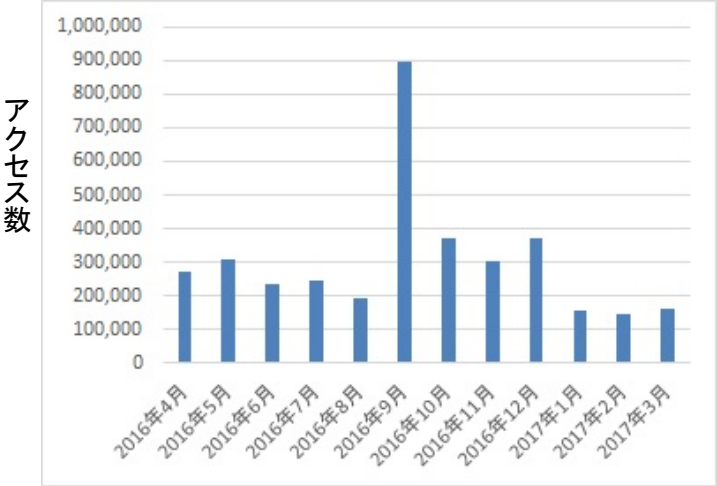
データベース利用状況

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料（拓本文字データベース）	13, 291, 863
全国漢籍データベース	3, 659, 497
東洋学文献類目	5, 405, 155
CHISE 文字オントロジー	4, 250, 965
東方学デジタル図書館	1, 436, 029
所蔵中国雑誌	119, 220
地図	346, 374
戦後日本における朝鮮史文献目録	121, 745
戦前日本在住朝鮮人関係新聞記事検索	47, 666
朝鮮通信使関係資料目録	58, 040
南インド寺院管理判決文データベース	77
ミクロ人類学文献･大学院文献データベース	87
性文化研究基本文献・資料データベース	151
〈近代日本の南方関与〉に関する戦後日本刊行文献目録	6, 918

拓本文字データベース
（2005年2月18日運用開始）

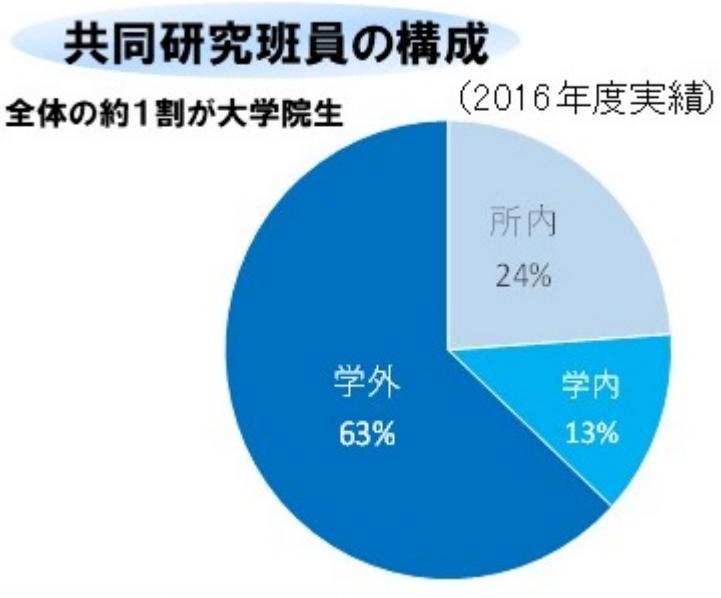


全国漢籍データベース
（2002年3月6日運用開始）



2. 共同研究を通じた人材育成

（1）大学院生、ポスドク研究者への参加呼びかけ

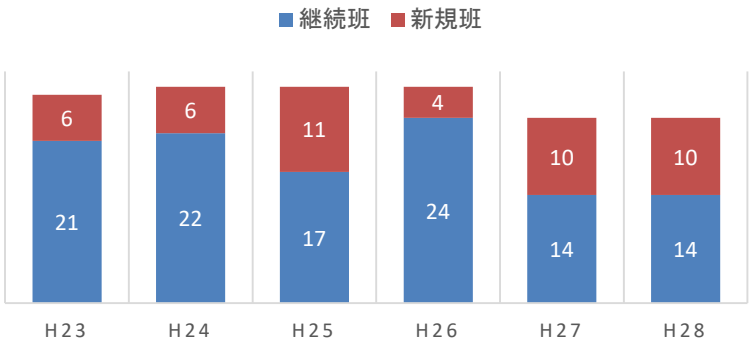


（2）日本学術振興会特別研究員や海外の若手研究者の積極的受入れ

学振 特別研究員	研修員	研究生	研究員	ＲＡ	オフィス・ アシスタント	研究支援 推進員	合計
13	0	4	10	5	11	3	46

（2016年度実績）

3. 共同研究の件数



4. 共同研究でしか成し得ない研究成果（2016年度）

『人種神話を解体する　1～3巻』

（東京大学出版会　2016年9～10月刊）

日本の被差別部落、アイヌ、天皇制、ロマ、韓国の白丁、アメリカの黒人、また人種神話を生み出す科学知とそれを解体する新たな科学知、そして歴史的「混血児」表象からミックスレイスの人々の生き方までを扱いながら、グローバルに通底する人種表象・人種主義のしくみに迫った書

『雲岡石窟』全20巻42冊

（日本語版：科学出版社東京・国書刊行会　2013～2017年）

（中国語版：科学出版社　2014～2017年）

龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つである雲岡石窟を包括的に調査した報告書。中国社会科学院考古研究所との共同編集により既刊の16巻に4巻9冊を増補。

5. 基幹的研究班体制の整備

①人文学の基本に関わる大きな課題を設定して、
共同研究の新たな可能性を切り開く

→ 総合性に根ざした挑戦的な試み

②拠点としての活動を見えやすくする

→ 国際的発信力の強化

〇2016年度新規開始班の例

課題公募型共同研究班

「オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日本映画史の再構築」班

様々な形・多様な経路で映画文化の創出に携わってきた人たちの経験を参照可能な形にアーカイヴス化する作業を通じて、映画文化発展の特質を社会的・経済的側面に着目して解明する研究を、ゲストを招いて共同でインタビューを行う等の方法で実施した。

参加者募集型共同研究班

「アジアにおける人種主義の連鎖と転換」班

ゲノム研究の現状や遺伝病の集団差、日本人の起源などをめぐる文理融合の共同研究や、海外からの報告者を交えての国際ワークショップ（公開）、さらに本年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解体する」（全3巻）の合評会、国際共同研究の成果論文集 Trans-Pacific Japanese American Studies の執筆陣座談会（公開）などを開催した。

6. 共同研究への参加状況
（2016年度延べ人数）

区分	延べ人数			
京都大学	1,260人	うち、外国人 373人	うち、若手研究者（35歳以下） 382人	うち、大学院生 487人
国立大学	473人			
公立大学	110人			
私立大学	622人			
大学共同利用機関法人	15人			
独立行政法人等	80人			
民間機関	64人			
外国機関	78人			
その他	69人			
合計	**2,771人**	**（うち、女性研究者　748人）**		

7. 共同研究班の開催状況と班員構成

- 毎週または隔週で研究会を開催
- 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

→ すでに開かれた共同研究拠点として活動

研究会の開催状況

毎　週	３班
隔　週	１４班
毎　月	４班
その他	３班
計	２４班

班員の構成

班員の所属	人数
所内	１６９
学内	９２
学外	４４６
（大学院生）	（６３）
合計	７０７

学外所属の内訳	人数
国立	１２６
公立	４３
私立	２１０
他	６７

（2016年度実績）

８. 外国人研究者等の受入人数（2016年度）

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員	研究生
6	10	6	1	6

外国人研究者等出身国
中国、台湾、韓国、イスラエル、アメリカ、フランス、
スウェーデン、ドイツ、イギリス　など

９. 学術交流協定締結状況（2016年度締結分）

・台湾：中央研究院近代史研究所
・中国：華東政法大学

10. 科学研究費補助金取得状況（2016年度）

	基盤研究S		基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		挑戦的萌芽研究		若手研究B	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数	1		1	2	3	6	4	12	3		1	5
金額（千円）	23,300		10,100	11,900	11,500	17,900	7,600	11,300	2,800		1,000	3,400

	研究活動スタート支援		研究成果促進経費（学術図書）		特別研究員奨励費		外国人特別研究員奨励費		合　計		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計
件数	2		2		3	11	1	2	21	38	59
金額（千円）	2,000		5,100		2,700	9,771	500	1,300	66,600	55.571	122,171

11. シンポジウム等の実施状況（2016年度）

（1）研究者を対象とするもの

①シンポジウム・講演会　8件

②セミナー・ワークショップ等　5件

合計13件（参加人数：535人）

（2）一般の方を対象とするもの

①シンポジウム・講演会　3件

②セミナー・公開講座等　18件

合計21件（参加人数：1,859人）

事業名：「みやこの学術資源」研究拠点形成プロジェクト

法人名：京都大学（人文科学研究所）

事業概要

京都大学
- 人文科学研究所
- 文学研究科
- 総合博物館（研究資源アーカイブを含む）
- 大学文書館
- 京都国立博物館附属図書館
- 京都市美術館
- 泉屋博古館
- 国立民族学博物館
- アンスティチュ・フランセ
- アジア臨地研究欧州コンソーシアム（ECAF）
- フランス国立極東学院（EFEO）
- イタリア国立東方学研究所（ISEAS）
- 日本イタリア会館

学術関係機関

共同研究
共同事業

学術資源の掘り起し → 先端的な人文学の機能強化 → 学術資源情報の公開

絵画資料　映像資料　文書　図譜　図書

京都研究の再構成
- 共同研究における学知の伝達
- 100年後の人文学への学知の継承
- 「目利き」としての京都学派が収集した学術資源
- フィールドワークの伝統

思想史・歴史学・文学
農学・医学・社会学・人類学
ヨーロッパ研究・美術史・文化財学・アジア研究

調査された学術資源のデータ目録を作成

研究成果の国際発信

調査　発掘 → **整理　研究** → **公開　発信**

京都国立博物館

桑原武夫

アンスティチュ・フランセ

梅棹忠夫

近代日本・近代京都研究の国際拠点「みやこの学術資源研究センター」設置

事業の目的・必要性・重要性

目的

学術資源に基づく、日本・京都の先端的な人文学の学問的再構成と国際発信

京都のさまざまな学術研究教育機関に所蔵されている学術資源の調査・整理・研究に基づいて、西洋から我が国に移入された近代的学知が、近代以前の伝統的・土着的な知や文化と融合しながら、現代に向けて発展してきた過程を、江戸や東京とは異質な文化的・知的背景をもつ、京都と先端的な人文学を展開してきた京都学派の独自性を踏まえ、再構成する。

→ **「みやこの学術資源研究センター」設置**

近代日本・近代京都研究の国際的研究拠点へ

必要性・重要性

学術資源の発展的継承

学術資源には、学問が形成されるプロセスが詰まっており、学術資源を発展的に継承し整理・解析を領域横断的に取り組み、後世に向けて伝達していくことは、我が国における近代的学知の構成過程を明らかにする上で極めて重要であることから、平安京以来の学術資源に富む京都の立地を活かし学術資源の情報を集積・保存し国内外の学術研究機関と協力し総合的な調査研究体制を構築するための拠点である「みやこの学術資源研究センター」を設置する。

学術資源を統括するハブ機能の形成

「みやこの学術資源研究センター」は、今までの人文科学研究所の研究・国際発信※等の実績を活かし、①学内の学術情報ネットワークの形成、②学術資源の調査・整理・研究、③国際的学術関係との関係強化および研究成果・情報の国際的発信、④京都大学の先端的な人文学の機能強化の4つの事業を取りまとめるハブ機能を形成する。

※本研究所では、歴史・文学・人種・科学史など多様な分野の海外からの優れた研究者を年間30人受け入れ、Kyoto Lecturesを恒常的に行うなど、国際発信の実績がある。